



日本SPF豚協会だより

2025.7
No.100

100th memorial issue

「日本SPF豚協会だより100号に寄せて」

一般社団法人日本SPF豚協会会長

さぎのやとしかず

鷺谷敏一



『日本SPF豚協会だより』は100号を迎えました。

創刊号から、99号までの提言・巻頭言を見渡してみると、初期の頃はSPFポークの拡販や差別化を求めた行動を促す意見が多くみられます。これを受け協会では、認定シールの普及促進、店頭用リーフレットの製作・配布、ちくさんフードフェアへの出展、子ども食堂への食材提供などの活動をおこなってきました。誌上においても、22号のSPFポークのキムチ鍋のレシピ紹介以降ほぼ毎号掲載してきました。あわせて「SPFのお店」として、SPF豚販売店や飲食店を取材して紹介してきました。会員の皆さまの側面的な支援となり得たでしょうか。これからも取り組んでいきたいと思っています。

号を重ねると、災害や家畜伝染病の発生に鑑み、SPF豚農場としてもそれらへの備えを強化すべきである、SPF豚の原点に立ち返って衛生対策を見直すべき、という提言が増えました。これは今日の豚熱・アフリカ豚熱脅威への対策として今も続いています。農場におけるPDCAサイクルの勧めなどとともに、これからも常に続いていく課題でもあります。

対応として、創刊2号目から疾病対策および飼養管理の基礎について連載をスタートさせました。豚の疾病対策を浅井鉄夫先生に、飼養管理の基礎について現場をよく知る伊藤忠飼料ピラミッド（現シムコピラミッド）研究所から発信していただきました。その後も数々の連載記事を日本SPF豚研究会会員や各界の専門家の協力を得ながら掲載してきました。豚の細菌病（山本孝史先生）、豚のウイルス病（山田俊治先生ほか）、バイオセキュリティ情報（三宅眞佐男先生）、養豚農場に侵入の恐れのある害獣・害虫対策（イカリ消毒研究所、岐阜大学鈴木正嗣先生・森部純嗣先生）などなど、これだけでも、一つの養豚衛生全書が編める内容です。

さらに、外国産高能力豚への対策として、国内種豚育種改良への取り組みを促進するための対策を求める声があり、これについては、認定規則を改定、「特別な措置」として、ピラミッド以外のSPF豚の導入を個別に承認することで対応してきました。併せて中部飼料（株）に多産系母豚の栄養管理の連載もお願いしました。種豚会社をピラミッドとする協会として、広く協力関係をもつ会社とのアライアンスを実現したことは評価に値すると思います。

また、2016年の伊勢志摩サミットから始まったAMR対策の推進については、いち早く抗菌性物質の基礎知識についての浅井鉄夫先生の連載で先取りしていることは誇らしいことであり、それを読み下し、実践しているピラミッド・会員農場各位には敬意を表したいと思います。

直近では、アニマルウェルフェアへの対応、SDGsへの取組がトレンドとなっており、セミナーで農水省の担当官に解説を依頼したり、斯界の研究者（廣岡博之先生）を招聘するなど、時宜に応じた対応を心掛けています。講演要旨を協会だよりに掲載するだけでなく、協会ホームページで動画公開をしています。

さらに、忘れてはならないのが、会員との交流です。「SPFのひと」として、会員・賛助会員を誌面で紹介してきました。協会編集部から直接会員のところへ赴くことで協会との距離が縮まり、セミナーへ参加が実現したり、さらには協会理事を務めていただくきっかけにもなりました。協会だよりが役に立っていると自負しております

協会だよりを会員相互の情報交換のツールとして、存分に活用していただけたらと思います。編集部としてもなお一層がんばりますので、何卒ご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

協会だよりは100号を迎えました!

感謝を込めて、 いただいたコメントを掲載します

当協会会報『日本SPF豚協会だより』は、2000年（平成12年）10月の創刊号から25年、年4回の発行が一度も途切れることなく今号で100号を迎えることができました。これもひとえに、提言はじめ連載、レシピ、トピックスなどの原稿をお寄せいただいた方々、取材にご協力いただいた会員・ピラミッドの皆さまのおかげであり、厚く御礼申し上げます。そして協会だよりをご愛読、支えて下さった読者の皆さまに心より感謝申し上げます。

これまでの歴史を振り返ってみたいと思います。

トップページは「提言」と題し、協会関係者を中心に幅広い分野の方々にご寄稿いただきました。会員紹介ページ「SPFのひと」にご登場いただいたのは会員農場81、賛助会員10、ピラミッド4。当初はピラミッドの担当者をお願いしていた取材も編集部が直接うかがってお話をお聞きする形になり、全国の会員の皆さまにお会いすることができました。

「会員・読者のページ」を中心とした寄稿ページには初代認定委員長・波岡茂郎先生、元SPF豚研究会会長・山本孝史先生

はじめ70名を超す方に原稿をお寄せいただきました。うち半数以上がピラミッドや農場の従業員を中心とした女性で、フランス・パリからの投稿もありました。

数多い連載原稿でも諸先生方にお世話になりました。2006年1月号からスタートした豚肉のレシピ掲載では、北海道の認定農場「道南アグロ」の直営販売会社「ひこま豚」（北海道森町）の日浅順一社長にご尽力いただき、今号まで73レシピをご紹介することができました。

2007年4月号からはSPF豚肉を取り扱う「SPFの店」を随時掲載、33店舗をご紹介しました。取材にあたってはピラミッドはじめ多くの方のご協力をいただきました。

多くの方に支えられてきた『日本SPF豚協会だより』、100号を記念して皆さま方からコメントをお寄せいただきました。誌面の許す限りご紹介いたします。

これからも協会だよりをどうぞよろしくお願いいたします。

（編集部）

北海道 ● 日浅順一

SPF豚協会だより第100号のご発行、誠におめでとうございます。長年にわたる情報発信と業界への貢献に心より敬意を表します。今後のさらなる発展とご活躍をお祈り申し上げます。

茨城県 ● RK

100号の発行おめでとうございます。メインの記事も大変勉強になりますが、それ以上に料理のレシピが毎号の楽しみです。SPF豚は風味も食感も優れており、素材の味を生かした料理に最適と感じます。これからもSPF豚の美味しさが今以上に広く伝わってほしいと思います。協会の今後の益々のご発展をお祈りいたします。

茨城県 ● 常陸牧場

創刊より25年間、記念すべき100号とのことでおめでとうございます！ 業界の今を知ることができる大変貴重な『日本SPF豚協会だより』は従業員皆、毎刊拝読させて頂いております。今後も協会だより編集部の皆さまの素晴らしい取材・編集と定期的なSPF豚の正しい情報発信を期待してお

ります。

茨城県 ● 櫻井 忠（あみファームアニマルクリニック）

『日本SPF豚協会だより』の発刊100号おめでとうございます！ 創刊の2000年10月は私が転職して豚関連の仕事を始めて1年半ほど経った頃です。当時、すでにSPF豚農場の認定委員会に出席していましたので、日本SPF豚協会の歴史を目の当たりにしてきました。協会運営に関わる方々には頭が下がる思いです。日本SPF豚協会の更なるご発展を祈念いたします。

埼玉県 ● 渡辺秀樹

創刊は2000年なんですね！ それほど昔ではないと感じてしまうのは年を取った証拠ですね！ ともあれ、100号は歴史の重みを感じます。繋いで来られた皆様に敬意を払いつつ、今後もSPF農場を繋ぐ存在であってほしいです。

千葉県 ● 藤田世秀夫人

SPF豚協会だより100号記念号（昭和100年に）おめでとうございます。藤田生前は、夫の存在に安心して読者ではあ

りませんでした。夫亡き後も“たより”をお送り下さりありがとうございます。初めて出会う横文字、専門用語をとばしながら読んでいます。号ごとの提言・課題は素人の私にはむずかしいのですが、協会に携わる皆様、生産者の方の豚さんへの温かなまなざしをいつも感じます。今の私は協会だよりを読むことで、夫がかつていた場所に触れられてなにやら嬉しいです。夫は、協会の17年間を振り返り、「協会で過ごせた期間は大切な宝物でありかけがえのない時間だった」と綴っていました。

千葉県 ● 三宅眞佐男

「エールに代えて」

SPF豚農場が100年農場として栄えるために消毒時の留意点を7つ挙げます。濃度、噴霧量、作用時間、気温、汚れ量、微生物の種類、消毒回数。つまり、水洗・乾燥後、消毒薬を有効な濃度で1～1.5L/m²撒き、半日置く。冬は低温に強い薬剤を使い、PCV2ウイルスや原虫卵には有効な薬剤を使う。2回の消毒が効果的です。

千葉県 ● 高橋吉男

「協会だより」号を重ねて100号です、この間の関係者の途切れないご努力があつてのことと思ひ心から感謝いたします。お知らせを聞いて25年前発行すると決まった時を、思い浮かべました。まさに光陰矢の如しを感じます。25年間協会の動きを身近に感じさせてくれる貴重な存在でした。ありがとうございます。

千葉県 ● かみさん

『日本SPF豚協会だより』100号記念号発刊おめでとうございます。毎号の「SPFのひと」でSPFに関係する人達の思い、またプライベートな話まで、楽しく見させていただいてます。これからも、より楽しく読める協会だよりをお願いします。

千葉県 ● すけさん

『日本SPF豚協会だより』100号記念おめでとうございます。毎号、執筆される方々のお考えや個性が良く表現され、また時々の時勢を反映させた内容であり、楽しく読ませていただき非常に勉強になります。これからも、楽しくためになる『協会だより』を宜しく願いいたします。末永く続きます事を祈念いたします。

東京都 ● ゆでたまご

100号とは、素晴らしいですね。それも一度も途切れることがない、ということが本当に素晴らしいです!! 長年にわたるご尽力とご功績に深く敬意を表しますとともに今後の日本SPF豚協会の一層のご発展をお祈り申しあげま〜す。協会だより100号、誠にありがとうございます!!

東京都 ● ムサとん

100号、おめでとうございます。私が読者となったのは30号からですが、今回改めて創刊号から読ませていただきました。当初からコンパクトでありながら、読みやすく内容が濃いものだったことがわかります。特に巻頭の提言が、先生方の本音が垣間見えるので気に入っています。編集作業は大変とは思いますが、末永くお願いしますね。

神奈川県 ● 祐森誠司

協会だより100号の発行、誠にありがとうございます。ITによる情報が溢れる中、印刷物で国内養豚界に対し弛まぬ情報発信を継続された努力に敬服いたします。継続は力なりとの言葉通り、貴協会には健康な豚を経済的に生産するために参集した会員の力が漲っていることを再認識致しました。今後益々の発展を祈念致します。

神奈川県 ● 畜産ジャーナリスト 大内田一弘

記念すべき100号、心よりお祝い申し上げます。25年もの歴史は、決して平坦な道のりでは無かったと想像しますが、日本SPF豚協会および会員の皆さまのたゆまぬ努力の賜物であったと思います。100号、200号、300号と続きますよう皆さまのさらなるご活躍を祈念しております! おめでとうございます!

神奈川県 ● 紺野君子

かつて協会だよりに掲載された事例をご紹介します。SPF豚の活用で良い経営が可能と考え、SPF豚の小規模効率的経営実践例として、横浜市でSPF豚100頭一貫5年間の養豚経営を2回転実践しました。赤池洋二・元協会会長と株式会社シムコにご協力いただきました。第1期 100頭一貫経営を5年間で終了し、6か月後第2期経営を再開、再開資金は第1期の収益を充当しました。6か月間の休舎で病原菌が撲滅、経営収益もあがりました。3K産業の代表といわれる養豚で、3T（たまに、旅、楽しむ）経営を実践できました。



定時総会を開催、 全議案を承認

定款を変更、代議員会から**全正会員**を**構成員**とする総会へ

本年度の定時総会（第21期代議員会）は6月16日（月）、東京都千代田区のKKRホテル東京において開催いたしました。

今年もリモート併催としました。

昨年度の事業経過・決算報告、今年度事業計画案、定款変更案、会費改定案および予算案など、全議案についてご承認いただきました。

会員の皆様には議案および議事録をお送りしております。

事業経過報告および事業計画案等の概略を掲載します。

●令和6年度事業経過報告

役員会とピラミッド会議と合体し、意思決定機関としての機能を強化し事業運営を図りました。

令和6年度のSPF豚認定農場数は、169農場（GGP・GP農場17、一貫生産・繁殖専門農場102、子豚育成専門農場・肥育専門農場50）でした。認定農場数は前年度から4農場減少し、飼養母豚数は72,307頭で364頭（0.5%）の減少でした。全国の飼養母豚数75.8万頭（令和6年2月現在畜産統計）に占める認定SPF母豚数の割合は9.5%で前年度より0.1ポイント上回りました。母豚飼養戸数の割合は5%でした。

生産成績を前年度と比較すると、一貫生産農場では、農場飼料要求率と出荷肉豚1頭あたりの抗菌剤費が改善され、農場回転数と1母豚あたりの年間出荷肉豚数が横ばいであったため、生産指数は前年度より0.7ポイント向上しました。

繁殖専門農場（繁殖-II）では、出荷子豚数が増えたものの抗菌剤費の悪化により、生産指数は0.7ポイント低下しました。肥育専門農場（肥育-II）では、抗菌剤費は改善されたものの農場要求率の悪化により、生産指数は低下しました。

理事会、定時総会、認定委員会、ピラミッド会議およびSPF豚セミナーはすべてオンライン参加併用で開催いたしま

した。

引き続き年明けを開催時期としたSPF豚セミナーでは、生産成績最優秀農場の事例発表、薬剤耐性対策の解説、畜産の必要性や将来についての講演など、多岐にわたる内容が好評を博しました。前年度に続き懇親会も開催し、参加者の貴重な情報交換の場となりました。

前年度同様、事業の大きな柱である次世代育成については、ピラミッドおよび関係組織の若手の交流をメインとした意見交換会・交流会を開催いたしました。山田俊治・SPF豚農場認定委員会副委員長の講演は参加者から大変勉強になったとの感想が寄せられ、意見交換を含め組織を越えた同世代の貴重な交流の機会となりました。

クラウドサービスを活用した認定業務のDX化は、ピラミッドの協力により本格運用がスタートいたしました。認定資料のペーパーレス化、認定作業・認定審査の効率化を図ることができました。また、集計方法を見直し、最新の認定データを含めたベンチマーキングとし、従来の農場別年次経過と合わせて農場にフィードバックできるようになりました。

優秀農場は、表彰農場選考委員会で選考し、総合生産成績部門と商品化頭数部門の最優秀農場をSPF豚セミナーで表彰しました。また、この2部門以外の表彰についても検討を始めました。

協会だよりは4回発行、会員への情報提供、国の施策等についての注意喚起、またイベント紹介等に活用しました。協会ホームページではセミナーの模様を動画にて公開しました。また、協会50年史や協会だよりのバックナンバーについては引き続きホームページ上で閲覧できるよう更新しました。

現行の代議員制度に基づく定時総会のあり方を含め、定款変更について調査・検討を行いました。

引き続き電子帳簿法に基づく請求書等会計書類のペーパーレス化に取り組みました。固定費低減・事務局のスリム化については、諸物価高騰の中節減に努めつつ、引き続き情報収集いたしました。

日本養豚学会・豚病研究会・日本養豚開業獣医師協会等関連会議やセミナー、学術会議への出席、農林水産省主催会議の傍聴など積極的に行いました。外部との交流の輪が広がったと思います。農林水産省関係部署からの情報提供については、ホームページや協会だよりを活用、またピラミッドを通じて迅速に周知しました。

ポークリーフレットの希望者への提供、認定マークデザインの提供・使用喚起、問い合わせ等への対応を行いました。

SPFポークの誤った認識や表示について、消費者から問い合わせや指摘がありました。その都度対応するとともに、協会ホームページもE型肝炎ウイルスや食中毒菌の汚染リスクも加えた説明に更新しました。

●令和7年度事業計画

◎主要行事の開催

会員、ピラミッドの協力を得ながら、総会、理事会、認定委員会、SPF豚セミナー等の開催を通して協会事業の推進を図ります。

◎ピラミッドおよび会員農場の次世代交流会等の実施

引き続き、次代を担う若手がSPF養豚や協会事業に対する理解を深め、交流できる場を設けます。会員農場の後継者世代にもその対象を広げます。意見交換を通して、若い世代の考え方を事業推進に活かせるようにします。

◎認定成績集計データの活用、表彰制度の継続

CM農場の生産成績のフィードバック(ベンチマーキング)は、認定時の直近データをもとにした集計を行い、より役立

つ情報として農場に還元します。成績優秀農場へのAマーク貼付についても引き続き実施します。また、蓄積された貴重な農場生産成績の活用方法を探ります。成績優秀農場の表彰は継続しつつ、特別表彰を設置、ピラミッドの推薦をもとに選考委員会で選出・表彰します。

◎認定業務のDX化

引き続きクラウドサービスを活用した認定審査を実施、認定委員会の効率化、認定業務の軽減化を進めます。ピラミッド担当者の協力を得ながら、より使い勝手のよい構築プログラムに改修いたします。

◎協会だよりの発行、協会ホームページの活用

年4回発行の協会だよりは今号で100号を迎えました。ホームページも、疾病問題、ワンヘルス、AW等々、業界を取り巻く様々な課題に対して情報提供の場として活用していきます。SPFポークへの正しい理解、認知度アップにも取り組みます。

◎協会の将来像、認定制度のあり方についての検討

これからの協会のあり方、認定評価方法の見直し、ヘルスチェック検査の課題等について、ピラミッド、日本SPF豚研究会の協力を仰ぎながら、引き続き協議していきます。

◎事務局の業務合理化

固定費の低減、事務・保管資料のペーパーレス化等引き続き取り組むとともに情報収集に努めます。

●総会開催方法変更にもとづき定款を変更

現行の定款にもとづく社員総会は、正会員の中から選出された代議員で構成(代議員数30名以内、任期5年)されており、現在の第4期の任期満了は今総会までです。この度代議員制度を終了し、全正会員を構成員とする総会(社員総会)とするため、定款を変更いたしました。改訂定款は電子公告とし、協会ホームページに掲載いたします。(7ページ参照)。

●理事の交代

全農畜産サービスピラミッドの理事が坂口一平氏から米倉浩司氏に、ホクレンピラミッドの理事が金内一浩氏から伊藤克浩氏に、それぞれ交代いたしました。米倉理事は坂口氏の後任として副会長に就任いたしました。

第22回

農場バイオセキュリティ
強化のための
最新情報



洗剤を利用した 水洗効果

アニマル・バイオセキュリティ・
コンサルティング(株)

三宅眞佐男

今回は豚舎の消毒効果は水洗方法が左右するというお話しです。水洗の目的は消毒薬の効果を阻害する被消毒面の有機物その他の汚れ（図1）を除去するためですが、この水洗に関する実験結果を紹介します。噴霧器は圧力30kg/m²の動力噴霧器を用いて水又は1%濃度の洗剤液（バイオソルブ）を床面に各々5L及び20L/m²噴霧しました。消毒は翌朝ビルコンS500倍液を1.5L/m²噴霧しました。採材は処理前と各処理2時間後に行ない、総菌数で評価しました。

結果は図2のとおりです。水洗前の菌数は8桁（億レベ

ル、cfu/25cm²）でした。5Lの水洗いでは除菌効果はなく、20Lでは1桁除菌しましたが、消毒後の除菌率は変わりませんでしたので、水量を多くするメリットは余りありません。次に、洗剤を入れて噴霧した後の除菌率は5Lで1桁（十レベル、同）、20Lでは2桁（百レベル、同）以上になりました。更に、消毒後の除菌率は5Lで5桁（十万レベル、同）以上、20Lで6桁（百万レベル、同）以上となりました。つまり、洗剤を入れて洗浄することにより、消毒後の除菌効果は大きく上がり、使用液量が多いほどその効果が高いことが証明されました。

ところで、洗剤の使い方はこの他に水洗前に1%濃度の洗剤を約1L/m²散布、あるいは発泡ノズルで噴霧して、30分以上放置した後に水のみを動力噴霧して洗う方法があります。

いずれの方法でも、水洗作業が短時間で済むので労力と水を節約し、ラグーン負荷を減らし、その後の消毒効果も上がります。筆者も昼休み前に散布しておき、午後に水洗しましたが、頑固な汚れを短時間で落とせることを経験しました。

洗剤は、他にキレナールやクリアソルブなどがありますが、何れも成分は両性、陰イオン性、非イオン性の界面活性剤、キレート剤、水酸化ナトリウムや水酸化カリウムなどで強アルカリ性の発泡洗浄剤です。

上述の実験は横関正直博士が畜産の研究誌¹⁾に報告したものです。

1) 畜産の研究55-12 2001

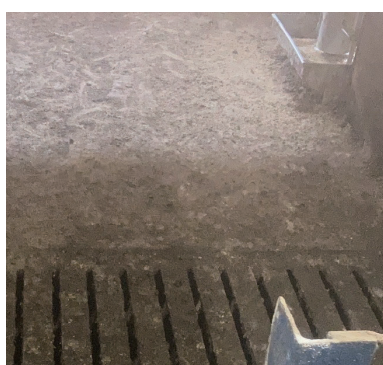


図1

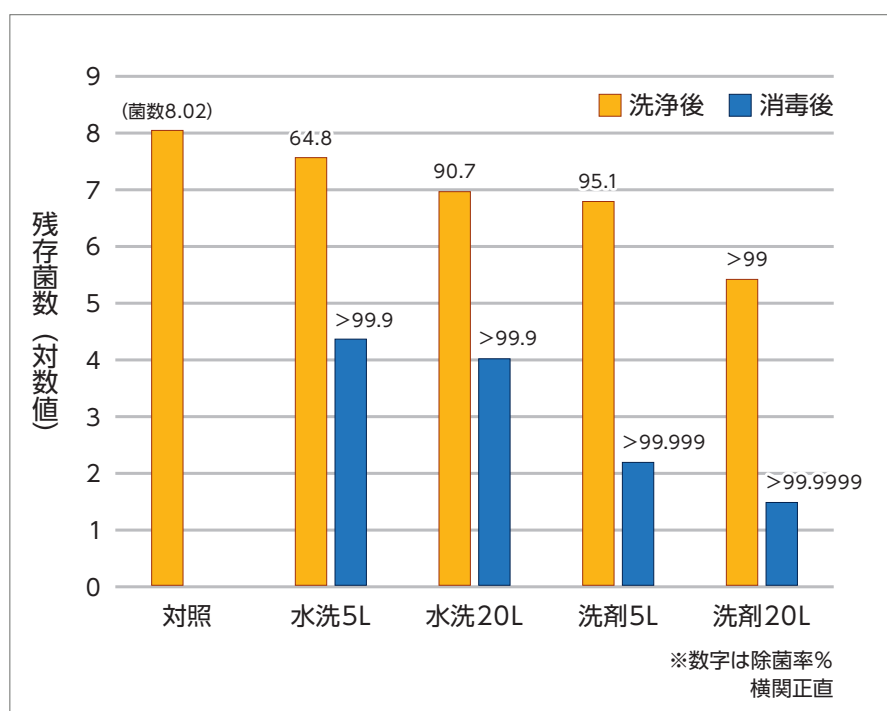


図2 洗剤使用による床面の消毒効果（総菌数）

協会からのお知らせ

●代議員による総会は今回で終了、全正会員が構成員の社員総会に

3ページの事業計画にもある通り、次の定時総会より代議員制度を廃止し、全正会員が議決権を持つ構成員となる「社員総会」に変更することとなりました。それに基づき、協会定款を変更いたします。また、公告方法を「電子公告」とし、協会ホームページに掲載いたします。総会は実出席または委任状出席、もしくは書面評決となります。正会員には改めてご案内いたします。

代議員の皆さまには20年以上の長きにわたり協会をお支えいただきました。本当にありがとうございました。今後ともご指導・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



最後の代議員総会の懇親会にて

●次世代研修会が大好評でした

3月18日(火)、中央区小伝馬町においてピラミッドおよび関連組織の若手職員の交流を目的とした「2024年度次世代研修会」を開催し、15名の若手に参加いただきました。山田俊治・SPF豚農場認定委員会副委員長に「科学的な思考による仕事の勧め」と題した講演をお願いし、意見交換いたしました。山田先生の講演がとても勉強になり大きな気づきとなったこと、同世代との貴重な交流の場となったなど、全参加者から大好評でした。今年度も引き続き協会事業への理解を深められるような機会を設けていきますので、ご協力のほどお願いいたします。



●SPFポークの誤った表現・広告にご注意ください

協会ホームページでもトップページで「SPF豚は無菌豚ではありません」と明記して注意喚起しておりますが、飲食店のチラシやホームページ等で「レアでも食べられる」「SPF無菌豚」などといった誤った表現が使われており、見かけた消費者から協会に情報が寄せられております。その都度訂正を申し入

れておりますが、後を絶ちません。一方でテレビ局などでは協会に確認の上放送するなどの対応も出てきています。

これからも不適切な表現等見かけましたら協会事務局までご一報ください。ご協力のほどお願いいたします。

認定情報

●2025年6月認定農場

(有効期間：2025年6月5日から2026年6月末日まで)

北海道・鈴木ビビッドファーム、青木ピッグファーム(株)、(有)フロイデ農場、**岩手県**・全農畜産サービス(株)東日本原種豚場、(株)のだファーム第一農場、同第一肥育農場、**茨城県**・(有)弓野畜産繁殖農場、同八郷農場、同千代田農場、(有)篠崎畜産、常陽醗酵農法牧場、**群馬県**・J A 東日本くみあい飼料(株)利根スワインセンター、利根沼田ドリームファーム(株)、**千葉県**・(株)ユウアイ、同森戸農場、高橋幸雄養豚場繁殖農場、同肥育農場、(有)ピギー・ジョイ第1農場、木内養豚第1農場、同第2農場、**岡山県**・岡山J A 畜産(株)荒戸山農場、**鳥取県**・(株)西日本ジェ

※次回認定委員会は9月11日(木)の予定

イエイ畜産名和農場、**愛媛県**・富永養豚、J A 西日本くみあい飼料(株)愛媛養豚実証農場伊予スワインガーデン、酒井ピッグファーム繁殖農場、同肥育農場、(株)多田ファーム、(株)多田ファーム天貢農場、**佐賀県**・J A さが天山ファーム、**長崎県**・(株)伊藤ファーム繁殖農場、同肥育農場、(株)濱田ファーム、(株)長崎県農協直販、(有)大西海ファーム白岳肥育農場、**宮崎県**・(有)レクスト繁殖農場、同肥育農場、ジャパンミート(株)川南農場、ジャパンミート(株)御池農場、ジャパンミート(株)クリーン農場、**鹿児島県**・鹿児島いずみ畜産(株)三笠農場、(有)さつま農場、(株)かいたく大口農場(以上42農場)

プロのシェフおすすめ、カンタン、おいしいSPFポークレシピ



SPFポークの しょうが焼きロール寿司

●レシピ提供・北の家族 武蔵浦和店 (埼玉県さいたま市)

工藤 学

今回はしょうが焼きを使った変わりロール寿司をご紹介いただきました。
見た目も華やかで酢飯やレタスとの相性もよくさっぱりいただけそうです。
豚肉で手巻き寿司、ぜひ挑戦してみたいはいかがでしょうか。

● 材料 ●

しょうが焼き

SPF 豚バラ 2 ミリスライス 50g

みりん 20g

濃口しょうゆ 20g

おろししょうが 小さじ1

上記の材料をフライパンで炒め、脂をよく切っておきます。

しょうが焼き

クリームチーズ 適量

板のり

針生姜 適量

酢飯 1本あたり 200g 目安

すりゴマ 適量

グリーンカール (葉レタス) 適量

● つくり方 ●

- ① 巻き簾にのり、酢飯、グリーンカール、生姜焼、クリームチーズ、針生姜、すりゴマの順にのせて巻き込んでいきます。
- ② カットして盛り付けます。裏巻き (のりと酢飯の順番が逆) と2種類あると、盛るときにキレイです。

★工藤シェフからのアドバイス

しょうが焼きは焼くときに脂がでるのでしっかりと取り除きま
しょう。脂が多いとごはんに染みてバラけてしまいます。

編集 後記

今年も猛暑がやってきました。人間もなんとか暑さに馴化して、夏を乗り切っていると思いますが、豚達は馴れる間もなく暑さにさらされているのではと心配します。協会だよりでも暑熱対策を紹介していますのでご参考に。さて、農場に限らず、今年から働く人への熱中症対策が企業に対して義務化されています。労働安全衛生規則が改正され、令和7年6月1日から施行されました。「WBGT (湿球黒球温度) 28度又は気温31度以上の作業場において行われる作業」を対象に働く人の熱中症防止対策をしなければなりません。根性で乗り切る時代は終わりました。秋には皆さんと健やかにお会いしましょう。(宅乱家半角斎)

雨は降るべき時に降らず、いきなりべらぼうに暑い夏を迎えるのでしょうか。それもCO₂のせい? 協会だより創刊の年の大気中CO₂濃度は370ppm、100号を迎えた今は420ppmと年々増えています。でも増えているのはこれと消費税だけではありません。25年前、一貫生産農場の母豚1頭当たりの離乳頭数は平均で22.46頭、それが今は25.66頭になりました。加速度的な増加ではありませんが、着実に豚の能力を引き出そうとされてきた皆様の日々積み重ねの結果であると思います。5年、10年後の成績がさらに楽しみになるよう協会も共に頑張ります。(岩魚)

25年前、つたないDTP (PCを使った印刷データ作成) による協会だより制作がスタートしました。写真を撮るため引っ張り出した、黄ばんだ創刊号に時の流れを実感。8ページ・年4回の発行にもかかわらず、毎号追われていたような気がします。校正が甘く誤字・脱字、人名や数字の間違い等でご迷惑をおかけしてきましたが、2度のリニューアル以降プロのデザイナーに編集をお願いできるようになりました。これからも皆さまに協会を身近に感じていただけるツールでありたいと思っています。引き続きご愛読のほどお願いいたします。(K)



日本SPF豚協会認定農場産シール

このマークは

日本SPF豚協会の

登録商標です

日本SPF豚協会だより

第100号 2025年7月1日発行 (季刊)

発行 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-8-2

TEL.03-5835-5375 FAX.03-5835-5376

e-mail:j. SPF .a@nifty.com

http://www.j- SPF .com/

発行人 鷺谷 敏一

編集人 小林 一彦